

委員会行政視察報告書

委員会名	議会運営委員会			
活 動 委 員 名				
委員長 戸来伝	副委員長 石橋義雄		久慈年和	
江渡信貴	堰野端展雄		赤石継美	
畑山親弘	田中重光			
経 費 区 分				
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	合計金額
765,779		4,534	96,290	770,313
期 間 (年月日)	平成28年8月8日～平成28年8月10日(2泊3日)			
視察事項	○新潟県燕市 議会棟の設備について			
	○富山県黒部市 議会棟の設備について			
視察先	新潟県燕市 富山県黒部市			
内容及び成果				
新潟県燕市について				
○庁舎全体のデザインは斬新さはあるが、当市に馴染むかどうかは疑問を感じた。				
○議場のサイドがガラス張りになっており、明るさや開かれた議会としては良い点もあろうかと思感じたが、外からの視線を気にせず、落ち着いて議論するには向いていないと感じた。				
○議長席から死角になってしまう執行部席があるので、当市の設計ではそうならないようにしたい。				
○議場に入る職員は必要最小限に留めるべきと感じた。				
○議員控室等の応接セットは旧庁舎時代のものを利用するなど、経費節減に努めていた。				
富山県黒部市				
○当市の設計委託業者である山下設計による庁舎であり、完成の際のイメージが沸いた。				
○議場内の机(天童木工の製品)はとても質が良かった。				
○議員席の左右、後方のスペースを確保することが必要。				
○議長席から死角になる席がないようにするべき。				

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感は別途作成し添付してください。

平成28年 8月29日

議会運営委員会 先進地行政調査報告書

議会運営委員会 久慈 年和

1. 調査年月日平成28年 8月 8日（月）～10日（水）
2. 目的地と調査項目
 - 目的地 8月 8日（月） 新潟県燕市議会
調査時間 14時00分から16時00分
研修項目 (1) 議会棟の設備について
 - 目的地 7月15日（金） 富山県黒部市議会
調査時間 14時00分から16時00分
研修項目 (1) 議会棟の設備について
3. 日程 別紙、議会運営委員会先進地調査視察日程を参照
4. 活動委員名 議会運営委員会 委員長 戸来 伝
副委員長 石橋 義雄
委員 田中 重光、赤石 継美、畑山 親弘、
江渡 信貴、堰野端展雄、久慈 年和
5. 調査報告書

<新潟県燕市>

キャッチフレーズ 日本一輝いているまち・燕市

議会棟の設備について

(燕市中島議長)

十和田市は、現代美術館で有名だ。

燕市は、金属加工業の90-95%を製造している。みがきの鉄器は手作りで1セットで15万円する鉄器もある。市内では、日本酒を製造していないが乾杯は日本酒で、地元製造の金属の器を使用している。ふるさと納税のお返しとして希望は、包丁が一番で、金属メッキ品、米（減農薬）の順になっている。

また、プロ野球球団ヤクルトスワローズと燕（つばめ）市は友好関係にある。

(十和田市戸来委員長)

十和田市は、合併特例債を活用して新庁舎の建設をするが、「議会棟に関する検討」の一助になればと思っているし、燕市の視察を十和田市にも生かしていきたい。

燕市の概要

新潟県燕市は越後平野のほぼ中央、県都新潟市と長岡市の間に位置している。信濃川と信濃川の分流の中ノロ川と西川に沿って形成されている。

北陸自動車道三条燕インターチェンジと上越新幹線燕三条駅という高速交通機関があり、主要国道116号と289号が整備され、JR越後線、弥彦線が交差するなど交通網が充実している。

県下有数の工業地帯で、金属洋食器や金属ハウスウェア製品は国内の主要産地になっている。また、良寛ゆかりの地であり、日本桜の名所100選の地、大河津分水で行われる豪華絢爛な「おいらん道中」は有名だ。

燕市は、平成18年3月20日に燕市、吉田町、分水町が対等合併し、新「燕市」が誕生した。

面積	110.96km ²
人口	81,465人
世帯数	28,811世帯（平成28年3月31日現在）
議員定数	24人
議員報酬	312,300円

新庁舎の概要など

1. 新庁舎の概要について

新庁舎は、敷地面積が35,932.63m²で、庁舎棟と付属施設等、来庁者駐車場で構成されている。

庁舎棟については、地上四階建て、延床面積が11,443.66m²で、構造は、鉄筋コンクリートで高さが24mだ。

現在、この庁舎には、一般職員347名、臨時・嘱託職員等72名で総勢419名が配置されている。（平成28年4月1日現在）

なお、新庁舎は、防災拠点機能の強化という面から、免震構造を採用しており、地区に免振装置を配置した免振層を備えている。また、末永く市役所として共用できる建物であるために、施工時に「高強度のコンクリート」を使用している。そして、省エネルギーをはじめ、環境負荷低減などに配慮した施設を目指し、建設環境総合性能評価システムで最高評価のSランクを取得している。

2. 新庁舎の建設事業費及び財源について

新庁舎の建設事業費については、建設工事費、用地取得造成費、備品購入費等を含め総事業費が約50億円。財源については、合併に伴う県合併特別交付金10億円全額を充て、その他合併特例債（起債対象事業費×95%：元利償還金の70%が普通交付税算入）、地域づくり資金県貸付金（起債対象事業費×5%）の制度の有効活用を図っている。

3. 庁舎建設にあたっての基本的なコンセプトについて

新庁舎は、市民が自然に集い、気軽にくつろげ交流することのできる市民の「えん側」となるよう、市民同士、市民と行政の燕（えん）を結ぶ、「四つのえん側」の立体的な繋がりで一体感の構成を図り、にぎわいのあるまちづくりの拠点となる庁舎の実現を目指した。

◆4つのえん側

- (1) ふれあいのえん（縁）側 ⇒ 庁舎南側の各階の待合いスペース
- (2) にぎわいのえん（宴）側 ⇒ まちづくり広場と隣接するウッドデッキスペース
- (3) 協働のえん（援）側 ⇒ 「つばめホール」
- (4) まちのえん（燕）側 ⇒ エントランス及び建物東側の屋根付空間

4. 災害時に市民を守る防災拠点としての機能について

防災拠点として高い耐震性や安全性と高度な機能を確保している

- (1) ヘリポートの設置（屋上）
- (2) 非常時用電源設備の設置（塔屋階） ⇒ 発電機の72時間分の燃料として灯油を備蓄
- (3) 防災対策室の設置（三階）
- (4) 免震構造の採用（地下） ⇒ 大地震時にも継続的な利用が可能

5. 燕市の機構風土と呼応する環境共生型庁舎として環境対策機能について

- (1) 自然エネルギーを積極的に活用
 - ① 「エコボイド」と自然換気窓「スイング窓」による自然通風と自然採光
 - ② 太陽光発電パネルを設置
 - ③ 風力発電一体型外路設備を設置

(2) LED照明を全面的に導入するなど高効率で合理的なエネルギー運用を図る

6. 議会部門について（部屋の構成等）

議会部門の部屋の構成については、議場・委員会室・議員控室・会派室（7室）・会議室（2室）・正副議長室・図書室・議会事務局で構成している。

- ① 議場及び議会関連諸室を、4階に集約配置した。
- ② 市民利用が多いと考えられるエレベーターから最も近い場所に議場の傍聴席入口を設けた。
- ③ 議場及び議会関連諸室の壁を一部ガラス窓にすることによって、自然光の入る、明るく開放的かつ市民が身近に感じられる環境を創生した。
- ④ 会派室の設置にあたっては、内部間仕切りは利用形態の柔軟性を考慮した。

議場収容人数は、議長席、議員席が24席、傍聴席が50席（うち車いす対応2席）、演壇質問席、理事者席を配置した。

議会中継について、平成25年9月から本会議のインターネット配信を開始した。

7. 庁舎建設後の機能追加工事について

- (1) 庁舎南側プロムナード風除け工事
- (2) エントランス木製カウンター設置工事
- (3) 売店ガラス壁撤去工事
- (4) 自立式庁舎案内標識設置工事
- (5) ATM設置工事
- (6) 郵便ポスト設置工事

議会棟等に関すること

【質】 使用してみて、良かった点は

<答> 連絡通路を設置して便利になった

【質】 委員会室の会議システムなどの状況は

<答> 委員会室と議員控室を区分けした

【質】 傍聴席の親子室の設置状況は

<答> 専用はない

【質】 傍聴席の難聴者への対応は

<答> 難聴者用は三年間申し込みがなかった

【質】 インターネット中継は（本会議、委員会、全員協議会ほか）

<答> 生で、インターネット中継を本会議だけ中継している。職員は、インターネット中継で議会の様子が見られるので、重要対応者以外は中継を見ながら待機している。

【質】 議会棟のセキュリティ対策の状況は

<答> シャッターで職員以外は入れなくしている

【質】 議長席の席が低かった

<答> 20cmかさ上げした

【質】 「議会だより」の発行状況は

<答> 「議会だより」は業者に委託している

<行政調査の感想>

上記の「議会棟等に関する」内容だが、議場及び議会関連諸室の壁が一部ガラス窓になっており、「自然光の入る、明るく開放的かつ市民が身近に感じられる環境を創生した」ようだが、視察した各地の議場では、初めての環境だったため、重厚感や落ち着き感などがなく、違和感を感じた。

また、庁舎一階の「つばめホール」で「原爆と写真展」が行われ、ホールが一般の方や地域の方々に数多く活用されていた。

<富山県黒部市>

キャッチフレーズ 日大自然のシンフォニー 文化・交流のまち・黒部市

議会棟の設備について

(黒部市木島議長)

新庁舎は、小学校の跡地に建てられた。隣の学校は、桜井高校です。十和田市は、日本三大開拓地の一つと聞いている。また、青森市民病院は、黒部市民病院を参考に建設されたと聞いている。なお、黒部市民病院は年間の収入額が、100億円を超えて、財政状況は良い。

黒部市には、企業誘致で「YKK」があり、北陸新幹線「黒部宇奈月駅」の乗降客は、平日は、2,000人程だが、週末には3,000人になっており、利用客に「YKK」の職員が多く含まれている。水の豊富な土地柄で、今後、観光に力を入れていきたい。

(十和田市戸来委員長)

十和田市は、平成17年度の合併時には、人口69,000人を超えていたが、現在の人口は、63,000人まで減少している。合併特例債を活用して観光に力をいれたが、観光客数は減少状態にあり、今後の課題になっている。

黒部市役所の庁舎設計者と十和田市の新庁舎の設計者が同じと聞き、視察に訪れた。黒部市の視察結果を十和田市にも生かして行きたい。

【黒部市出席者】

議会	議長	木島 信秋
総務企画部総務課	主幹	橋本 正則
議会事務局議事調査課	課長補佐	橋場 和博
議会事務局議事調査課	主事	栗山 久範

黒部市の概要

富山県黒部市は富山県の東部に位置し、西は日本海に面し、北から東は入善町、朝日町、長野県の県境に、南から西は魚津市、上市町、立山町に接するとともに立山連峰をはじめとする中部山岳国立公園が広がっている。

三大都市圏からはほぼ300kmと同程度の距離を有し、県都富山市からは約30kmに位置している。

地勢は、平坦部に比べて山岳部が比較的多く、大きな高低差のある黒部川、布施川などの河川が流れており、黒部川流域には広大な黒部川扇状地が広がっている。

行政区域は、東西約27キロ、南北約35キロ、面積は427.96km²で、富山県全体の面積の約10%を占めている。

気象は、年間平均気温が平野部で14℃、年間降水量は山岳部では平均4,000mm以上と、我が国屈指の多雨多雪地帯であり、平野部でも2,500～3,500mmの年間降水量となっている。

黒部市は、平成18年3月に、黒部市、宇奈月町が合併して、新しい「黒部市」が誕生した。新庁舎の落成式は、平成27年に行われた。

面積	427.96km ²
人口	41,852人
世帯数	14,628世帯(平成22年の国勢調査)
議員定数	18人
議員報酬	370,000円

新庁舎の概要など

1. 新庁舎の基本方針について

黒部市新庁舎建設基本構想報告書（平成23年7月策定）に示された基本理念と5つの基本方針に基づき、利便性が高く、永く市民に親しまれる庁舎の実現を目指す。

〈基本理念〉 市民の参画と協働を推進し、黒部市発展の核となる庁舎

基本方針 1 人にやさしく市民に親しまれる庁舎

- ① 市民利用の多い窓口を1階に集約する。
- ② 吹き抜け空間であるエントランスホールを中心に窓口全体が見渡せるわかりやすい空間構成。
- ③ エントランスホールなどの市民スペースに情報端末や掲示板を設け、市政・議会・産業・市民活動などの情報提供機能の充実化を図る。
- ④ 来庁舎用駐車場は敷地北側などに十分な台数を確保。また、主要な建物出入口には車椅子駐車場を隣接して配置する。
- ⑤ ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい空間づくりを行う。

基本方針 2 災害時への安全・安心を確保した庁舎

- ① 災害時の防災拠点として、防災管理室の充実など危機管理機能の強化を図る。非常用電源の確保、複合熱源の採用など、非常時における業務の持続性を高める計画。
- ② 地震を考慮した構造形式とする。
- ③ 台風等によるガラス破損を考慮した計画とする。
- ④ 河川の氾濫履歴を踏まえ、地下に造らない計画とし、適切な1階の床高さの設定を行う。基幹設備は最上階の配置する。

基本方針 3 効率的で情報化に対応できる庁舎

- ① 「市民サービスの向上」「業務の効率化」「執行部を中心とする全館連携」「議会議室の独立性が確保」が行いやすい施設構成とする。
- ② 将来の行政需要の変化にも対応できる自由度が高い執務空間づくりを行う。
- ③ 庁舎機能と保健センター機能の独立性・業務連携が両立できる施設構成とする。

基本方針 4 環境に配慮した庁舎

- ① 熱負荷を抑制する建築的工夫（庇の設置など）を行う。
- ② 自然と光と風を積極的に取り入れる計画とする。
- ③ 黒部の気候特性を踏まえた自然エネルギーの活用（太陽光、井水熱利用など）を行う。
- ④ センサー技術を活用した最適運転制御などの先進的システムを採用したエネルギー利用効率を高める。
- ⑤ ライフサイクルCO2を削減するため建物の長寿命化を図る。

基本方針 5 まちづくりの拠点にふさわしい庁舎

- ① 市民に開かれた庁舎として市民スペースの充実化を図る。
- ② 市民スペースである会議室、市民協働スペース、カフェは休日開放できる計画とする。
- ③ 市民の健康増進をサポートするために、市民利用スペースに隣接して保健センターを配置する。
- ④ 様々なイベントに対応できる広場・駐車場を敷地内に確保する。
- ⑤ 庁舎や外構は、長期にわたり品格ある佇まいを持ち続けられる意匠とする。

2. 計画概要について

(1) 建築計画概要

都市計画区域	都市計画区域内
用途地域	近隣商業地域
防火地域	準防火地域
敷地面積	約13,622㎡

(2) 各階面積表

5階	機械室、備蓄倉庫	214㎡
4階	議会、議会関係諸室	1,838㎡
3階	執務室（執行部）	1,902㎡
2階	執務室、保健センター、市民利用スペース	3,515㎡
1階	エントランスホール、窓口執務室、駐車場	2,066㎡
合計		9,535㎡

3. 建築計画について

1階（窓口フロア）

- ① 窓口部門を1階に集約し、エントランスホールから窓口全体が見渡せる計画とした。
- ② 「さくら広場」と「ポケットパーク」をつなぐ内部通り抜け空間を確保し、来庁舎の利便性を図った。
- ③ エントランスホールには、情報端末・掲示板などを配慮し、情報提供の充実化を図った。
- ④ 保健センターエントランスを行政棟と分離して配置することで、庁舎の閉庁時にも単独利用しやすい計画とした。

2階

執務フロアの考え方

- ① 執務室はレイアウトの自由度が高いワンルーム形式の空間とした。
- ② レイアウトの基本形は仲廊下形式とし、奥行き約13mの無柱空間を確保した。
- ③ エレベーター・階段・トイレを建物の東西2箇所分散して配置した。

市民利用スペースの考え方

- ① 市民の協働・交流・情報発信の場として、市民協働スペース、テラスなどを設置した。
- ② 職員食堂（カフェ）をテラスに隣接して配置し、市民開放できる計画とした。
執務の自席での食事（昼食）は禁止している。また、職員食堂（80席）が混み合うため、三段階の勤務時間（昼食時の休憩時間）を採用している。
- ③ 大会議場を設置し、市民に開放できる計画とした。
- ④ 市民交流スペースをエントランスホール吹抜けに画して配置し、行政棟内にアクティビティ・にぎわいを創出した。

保健センターの考え方

- ① 保健センターは独立性を確保するため敷地南側に配置し、専用動線（エレベーター・階段）を設置した。
- ② 保健センター内に健康増進課を配置し、業務効率・市民サービスの向上を図った。
- ③ 保健センターと行政棟を内部空間でつなげることで、機能連携の促進を図った。

3階（執務フロア）

- ① 市長室・副市長室・庁議室は、明るい採光が確保できる南側に集約して配置した。
- ② 災害時の迅速・的確な防災指揮を行うため、IT・防災管理室（災害対策本部機能）を市長室・副市長室に近接して配置した。
- ③ 行政棟の中央に吹抜けを配置し、自然採光・自然通風を取り入れた。
- ④ 交流等の屋上には屋上緑化・テラスを配置し、市民開放できる計画とした。

4階（議会フロア）

- ① 議会の独立性を確保するため、議会関連諸室を集約して配置した。
- ② 議場には傍聴席を配置し、市民が参加できる開かれた議場とした。

- ③ 基幹設備関係諸室（熱源機械室・電気室・非常用発電機室）は浸水対策として、4階に配置した。

5階

- ① 備蓄倉庫をエレベーター・階段に近接して配置した。
② 屋上の南側に太陽光パネルの設置スペースを確保した。
太陽光発電 ⇒ 災害用対策（設置敷地が狭く規模が小さため）

議会棟に関すること

【質】 地元産木材の活用状況は

＜答＞ 議会棟内装は、木材を多く使用した落ち着いた色合いになっていた。木材は、富山県産スギ（立山産）で、「木造建築の魅力や森づくりに対する理解や意識の向上を目的として、富山県森林整備事業や林業再生事業（地域材活用施設整備）を活用している」と案内板で紹介していた。なお、議場の議席や椅子等は富山県産材を使用し、山形県天童市の木工所（高級家具）で作製した。

【質】 タブレットの導入状況は

＜答＞ 2年前から議員全員に個人的にタブレットを購入してもらっている。通信費も議員持ちにしている。カレンダー機能を利用して、正副議長の日程を表示している。紙での保管が不用になった。現在、タブレットを議場に持ち込むことを禁止している。ファックス送信もメールを活用している。

【質】 会派室の状況は

＜答＞ 応接セットと事務机（1議員に1机）を配置している。以前より、議会に来る議員が増えてきた。

【質】 議会棟のセキュリティ対策の状況は

＜答＞ 議場のみ施錠している（議場に音声機器があるため）

【質】 議会図書室の市民利用は

＜答＞ 市民の利用はない

【質】 議員の出退表示の設置状況は

＜答＞ 「緑」と「赤」と「オレンジ」で出退を表示しているが、オレンジは使用していない。

【質】 議員用ロッカーの設置状況は

＜答＞ ロッカーを設置している

【質】 過去の会議録等の保管状況（全ての議会棟内に保管しているのか）は

＜答＞ 3階の書庫に保管している。直近、2年分は4階で保管している。

<行政調査の感想>

議場の床がフラット（たいら）になっており、後ろの席の議員から前の理事者席が見にくく、やはり、段差・傾斜にした議場にすべきだと感じた。

今後、タブレットの導入を検討していかねばならない状況になっているようだ。

なお、黒部市職員から、「古い庁舎に新しい備品設置は違和感がないが、新しい庁舎に古い備品には違和感がある」とアドバイスがあった。不用書籍、書物、資料は半分は処分したそうです。十和田市でも新庁舎への移転時に、不用品の処分をすべきと思った。

富山県黒部市 議会棟の設備について

江渡信貴

黒部市は富山県の北東部に位置し面積は富山県の約 10%を占めています。黒部峡谷や北アルプスなど山・清流・緑の大地に育まれてきました。人口は4万1千人強で3次産業が52.8%と1次産業の4.0%と十和田市とは違った構造であります。

今回は議会棟についての説明をうけてきました。新庁舎を見て、窓口業務は1階に集約して市民サービスの向上に努めているようでした。また1階、2階と市民が訪れる階には東西にトイレ・エレベーター・階段を設置しております。そして災害時の迅速、的確な防災指揮を行うため対策本部機能を3階の市長室・副市長室に近接して配置をしており、甚大な災害時に本部の機能が維持できるように、電力供給機能や通信・情報機能等各インフラも3階に整備され、5階には備蓄倉庫や太陽光パネルが設置してありました。庁舎内には食堂もあり、交流サロンも2箇所隣接していて、とても開放的で勉強や市民の集いの場所として、とても喜ばれているようでした。

4階の議会フロアに関して。

議場は行政の中核かつ意思決定を図る場所として、一定の格式を図りつつ、シンプルな作りとなっており、傍聴席は誰もが見やすく、聞きやすく、車椅子でも傍聴できるコーナーもありました。もちろんバリアフリー対応は万全で待合スペースやホールなども市民の動線を考慮して作られていました。議会中継のための放送設備もありました。ユーストリームの配信映像サービスを使っただけの配信ですが、議会開会中以外、録画配信はしていないとのこと。また、インターネット中継は本会議のみで委員会、全員協議会等、動画配信はしていないそうです。

タブレットは全議員が持っており自費で用意したとのこと。委員会室は2部屋あり全員協議会、常任・特別委員会等、必要な収容人数・マイク等の機能が揃っていました。各議員や各会派の来客対応のため、十和田市には備わっていない会派室が設置されておりました。間仕切り壁の移動で部屋の大きさを変えることができ、長い目で経費がかからない造りになっていました。

新潟県燕市 議会棟の設備について

燕市は越後平野のほぼ中央に位置しており人口8万1千人強の新潟有数の工業地帯であります。金属洋食器、金属ハウスウェア製品は国内の主要産地となっています。製造業は、商工農林水産業の中で3884億円強の売り上げがあり、小売業759億の約5倍の販売額となっています。

新庁舎は平成25年5月7日に開庁しました。新庁舎建設にあたり無駄を省き、市民を中心に考え4つの基本方針を掲げ燕市の公共建築では初めてとなる免震構造を採用したそうです。設計コンセプトは「人と人との燕(えん)を結ぶまちづくりの拠点」として、4つのえん側をあげました。①庁舎南側の各階の待合スペースを「ふれあいのえん(縁)側」②まちづくり広場と隣接するウッドデッキスペースを「にぎあいのえん(宴)側」③つばめホールを「協同のえん(援)側」④エントラス及び建物東側の屋根付空間を「まちのえん(燕)側」として立体的な繋がりで一体感の構成を図り、にぎあいのあるまちづくりの拠点となる庁舎の実現を目指したそうです。

配置計画としては、周辺の農地への影響を考え建物を敷地の中央部に配置。建物は西日の影響を低減する東西軸配置としています。冬季の北西風に有効な建物東側にエントラス部を配置。陽当たりの良い南側には庁舎と一体的な活用ができる交流機能や防災拠点の機能を強化。雁木プロムナード、駐車場の融雪、車庫連の駐車場所、植樹など季節風や積雪に対する配慮には力を入れたそうです。庁舎のアクセス性に対する配慮については来朝者駐車場を庁舎及び街づくり広場に近接。高齢者、妊婦、障害者が優先的に駐車できるスペースを設けていました。

施設の全体計画では、来庁者に分かりやすく、職員が効率的に執務を行える環境の実現のため、オープンでワンルームの執務空間を作り、中央に執務室、南側に「縁側」北側に執務関連諸室を、そして職員の動線上に打ち合わせコーナーを配置。将来の機構改革や毎年の移動に柔軟に対応しているとのこと。休日や閉庁時の市民開放エリア(エントラスホール・つばめホール・各種会議室・スカイラウンジ等)と執務室はリングシャッターで区画し建物東側に集約、エレベーターやトイレ等のコアの有効利用を考え配置されていました。環境共生型庁舎については「エコボイド」と自然換気窓「スイング窓」を採用。雨水利用、節水型器具採用。太陽光パネルと蓄電池及び、外灯一体型風力発電設備を設置。居住域のみを空調する「床噴出し空調」を設置。全体的に来庁者に分かりやすく開放的な庁舎であった。

委員会行政視察報告書

委員会名	議会運営委員会			
活 動 委 員 名				
堰野端 展雄				
戸 采 伝		石 橋 義 雄		久 慈 年 和
江 渡 信 貴		赤 石 継 美		畑 山 親 弘
田 中 重 光				
経 費 区 分				合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	
765,779		4,534	96,290	770,313
期 間 (年月日)	平成28年8月8日～平成28年8月10日(2泊3日)			
視察事項	議会棟の設備について			
視察先	新潟県燕市議会 富山県黒部市議会			
内容及び成果				
1、新潟県燕市の議会棟設備について				
燕市は平成18年3月20日に燕市、吉田町、分水町が対等合併し、新「燕市」となった。その際、合併特例債を活用して、新市のまちづくりとの整合性を図りながら、合併後10年以内のできるだけ早い時期に現在の位置に、新たな本庁舎を建設し、行政サービスの向上と業務、施設の統合による人員の効果的活用を図ることが合併協定書に盛り込まれた。				
新庁舎は平成25年に落成。総事業費は約50億円。延べ床面積は旧3庁舎を合わせた面積とほぼ同じ規模。防災拠点機能の強化という面から免震構造を採用。未永く供用できる建物であるために高強度のコンクリートを使用。また、省エネルギーをはじめ、環境負荷低減などに配慮した施設を目指し、建築環境総合性能評価システム(CASBEE)において最高評価であるSランクを取得。東京建築賞・第41回建築作品コンクール一般二類部門において優秀賞を受賞している。				
議会棟については、				
①議場及び議会関連諸室を4階に集約。				
②市民が利用しやすいよう、エレベーターから最も近い場所に傍聴席入口を設置。				
③議長席が低かったため、後から高くした。				
④夕方になるとシャッターが下りて議会棟のセキュリティーが保たれている。				

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感は別途作成し添付してください。

- ⑤難聴者用の補聴システムは導入しているが未だに使用されていない。
 - ⑥ネット中継は平成25年9月から導入し、本会議のみを配信。モニターで庁舎内4カ所で放映。
 - ⑦はじめに図書室を設けなかったため、給湯室を代替えた。
 - ⑧会派室の間仕切りは利用形態を考慮し、スライディングウォールを使用。遮音性はそこそこ保たれる。またネット環境はW i - F i 。
 - ⑨市旗・国旗は掲げている。
- 等の状況であった。また、議会だよりには本会議での賛否を掲載、議事録の古いものは外部倉庫に保管しているとのことであった。

2、新潟県黒部市議会の議会棟設備について

黒部市の新庁舎は平成27年10月に落成。「市民の参画と協働を推進し、黒部市発展の核となる庁舎」を基本理念に建設。都市計画道路に対する「顔」を創ることを重点とした配置計画や2つの市民広場を設け、歩行者空間で結び、1階敷地内を自由に通り抜けることができるようにした。また、市民の健康増進をサポートするために市民利用スペースに隣接した保健センターを行政棟と分離して配置。庁舎の閉庁時にも単独利用しやすくした。河川の氾濫履歴を踏まえ、地下を造らず、基幹設備は最上階に配置。センサー技術を活用した最適運転制御などの先進的システムを採用し、エネルギー利用効率を高めている。総事業費は47億4千万円。

議会棟については

- ①全体的にフラットな造りとなっており、全員の視線が一緒。
 - ②マイク設備が席で立った場合に音を拾いにくいことが判明。
 - ③インターネット中継は本会議のみであるが、ケーブルテレビの中継もしている。
 - ④タブレット（iパッド）を議員各自に購入させ、連絡はEメールで。
 - ⑤図書室にはパソコンを置かず、市民には利用させていない。
 - ⑥会派室にはパソコン・プリンターを設置し、インクは会派もちとしている。
- 等の状況であった。黒部市も議会の独立性を確保するために議会関連諸室を4階に集約していた。また、十和田市と同じ設計事務所ということもあり、イメージ的にはこのような造りになるのではないかと思われ、有意義な視察となった。

委員会行政視察報告書

委員会名		議会運営委員会		
活動委員名				
ア 表 佐		石橋 義雄		田中 重光
赤石 健美		堀野 瑞 展雄		久慈 平礼
江波 信貴		畑山 親弘		
経 費 区 分				
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	合計金額
765,779		4,534	96,290	770,313
期 間 (年月日)	平成28年8月8日～平成28年8月10日(2泊3日)			
視察事項	○新潟県燕市 ・議会棟の設備について			
	○富山県黒部市 ・議会棟の設備について			
視察先	新潟県燕市 富山県黒部市			
内容及び成果				
<p>新潟県燕市は、県の合併制の中で旧燕市、吉田町及び合併町の一部2町の合併により合併し新燕市となり人口は約1,000人余り増え、当初合併を断ったが、経営合併協議会であり、合併協定新市建設計画の中で合併特例債を活用し、新市95%の2014年度、10年以内の早い時期に旧吉田町地内の本庁舎を建設しようとして、行政庁舎の向上と業務施設の統合による人量の効率的節減を目的として、新庁舎建設の具体的な進め方がある。</p>				
<p>新庁舎敷地面積は旧吉田町の田園地を設計し、25,922㎡、新庁舎の延床面積は11,440㎡、構造は鉄筋コンクリートで地上4階で高さは24m、新庁舎は最新の耐震性能と防災と対応し、即対応の2層の防災拠点機能の強化を目的とし、防災対策の強化と、耐震構造を採用して、10年以内の早い時期に建設し、供用する建物として、高強度のコンクリートを使用し、省エネルギー環境負荷低減を目的とし、評価システム(CASBEL)により最高の</p>				

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感も別途作成し添付してください。

平成28年8月8日 新潟県燕市

1. 建設時のコンセプトとして

市民のあらゆる人々に「やさしく、安全安心」な庁舎という発想のもとに「4つの縁側」設定により、市民同士、市民と行政の燕を結ぶ各階に集合スペースにふれあいの場を設け、隣接する広場（芝）やウッドデッキスペースで青空市、フリーマーケット等イベントが開催出来る開放的庁舎は素晴らしい。これまでの視察で一番感銘を受けた。

2. ヘリポートが設置されていたが、当然と言えば当然だが、十和田市では陸上競技場が使えるとの考えから設置を見送っているが、あの場所をいつまでも陸上競技場にしておかない。今後公共の場として使う時期が必ず来るとされるし、現競技場は公認コースとしては認められていないはず。

3. 庁舎内にレストラン、食堂を福祉法人NPOの経営で誰でも活用（市民、職員、学生）できるシステム（夕方4時まで）読書、勉強も可とする。福祉関係者の活用の場を広げる意味でも良い。

（当市の喫茶室は狭すぎる）

4. 机の上に書類を置かない（残さない）。机に引き出しが無い。あるのは小さなワゴン（1個）だけ。整然として見た目がスッキリ。

議会棟について

1. 議長席と議員席の段差がフラットに近く感じられたが、多少の段差をつけた方が良いと思う。

2. タブレット導入については、現在未導入。（90%の議員未経験のため）

3. 議員の出退表示の設置については、現在PCで確認できるが、市長については特に表示していない。

4. 議会棟のセキュリティ対策として午後6時以降はシャッターを下し（閉鎖）しているが、当市もそうすべきと思う。（現在当市は議場のみ鍵掛けしている）

備考

1. 燕市では施工時「高強度コンクリート」使用と強調しているが、当市で使用予定のコンクリートと相違があるのか？

2. 燕市庁舎は建築環境総合性能評価システム（CASBEE）において最高評価Sランクに評価されているが、当市はどのランクを目指しているか？

